



【第144号 目次】

- 教育コラム「磨」
- 令和4年度を振り返って
- お知らせ
- 速報



磨

癸卯（きぼう）

企画監兼次世代型教育推進部長 濱田久美子

今年は「癸卯（みずのと・う）」に当たり、「厳冬が去り春の兆しが訪れ、成長や飛躍へと向かう年」と言われている。別に『きぼう』とも読むようだ。

振り返れば令和2年2月27日、安部首相の全国一斉臨時休校の要請から長く悩ましいコロナ禍が始まった。コロナの脅威と体温測定・消毒・マスクの毎日で不便を強いられてきた。そして3年が経ち令和5年2月27日。岸田首相からコロナの法的位置づけを5月以降「5類」に引き下げるとの表明があり心から安堵する。この3年、コロナとともに押し寄せてきたのがデジタルの大波だろう。子どもたちは1人1台端末を持ち、ICTを活用した授業に取り組むこととなった。私たち大人はテレワークが進み、オンライン会議も通常になった。働き方が自在となり、仕事の能率も上がったように思う。私はコロナ濃厚接触者となり3日間自宅でテレワークを行ったが、仕事はすこぶる順調だった。学校を訪問すれば、登校できない生徒の代わりにアバターが授業を受けていて驚かされた。このように全国津々浦々の学校で様々な教育実践がなされ教育DXが展開されている。教育のデジタル化は、従来の一斉授業から『個別最適化された学び』へと学習方法を転換させる。学制以来の変革とも言える教育DXに私は希望を感じている。



最近読んだ本で興味深かったのがイアン・ブレマー著『危機の地政学』だ。表紙が赤で、帯紙には「民主主義が揺らぎ、分断が進む世界が直面する未曾有の脅威。人類は歴史から何を学ぶべきか。それでも希望はある。」とあり、惹きつけられた。彼は本文（pp. 330～331）中でこう述べている。「Z世代の経験は私の世代のものとはまったく違う。～略～ 私たちの世界観は、ほぼ大人たちのフィルターを通して作られた。～略～ しかし、今の欧米に住む若者たちは世界各地で作られた音楽を聴き、映像を見て、アジアやアフリカの子どもたちとリアルタイムでゲームをプレーしている。これは25年前のグローバリゼーションとは違う。Z世代は、これまでの若者たちが持ったことのない、視野が360度に広がる世界観を持っていて、自分と他人との間にいかに共通点があるのかがすぐわかる。～略～ 世界中の若者たちは、大半の大人たちが何も意見も持たない問題に対して、何らかの見解を持っている。今の大人たちが作るツールを新たな目的で使い、今の大人たちが想像もできない発明をする若者たちの能力に、我々は未来を信じていいのだと思うべきだ。」

技術革新により国や地域の枠組みを越えてヒト、モノ、カネが行き来するグローバリゼーションをやっと理解し、“Think globally, act locally” の考え方を進めていこうという私にとって、視野が360度に広がる世界観を持つZ世代は異次元だ。異次元を理解することは難しいことだが、未来を切り拓く彼らの考え方や学び方或いは行動をできる限り尊重したい。私たちのそばにいる子どもらのやりたいことを古くさい大人たちが止めてはならないと思う。規制からは何事も始まらない。私たちはデジタル化によって様々な障壁を乗り越え、皆が平等となる世界を実現するのである。そのような未来を信じたい。だから、もうしばらくの間、本県教育の振興に寄与するため、新たな場所で次世代教育に挑戦していくつもりである。ルイアラゴンは、『教えるとは共に希望を語ること』と言ったが、“教える”を“教育”に読み替えたい。『教育とは共に希望を語ること』。



教科研究センター ～ 令和4年度を振り返って ～

若い先生方の利用が増えています

本年度も、学生さんや教職員、就学前教育に関わる方々などの来室がありました。中でも特に若い先生方の来室が増え、初めて来室された方は職場の先輩教員や同僚、指導教員、研修会や教科研究センター講座等での紹介がきっかけとなっています。教科研究センターでの教材づくりが、よりよい授業につながると実感した方の再来室の頻度が高くなっています。



〈本部教科研究センター〉

先生方の要望をお聞きして一緒に教材を作成し、授業を考えます



〈中部教科研究センター〉

カラー拡大教材を作成するときには、用紙のサイズや活用方法、児童生徒数、学級の形態（複式学級であるか）などをお聞きしています。また、作成する教材はどのような目的でどのように使うのかをたずね、より効果的な提示の仕方を一緒に考えました。今年は、教材作成の他に、「子供たちが作った資料を用いて授業（発表）をするので拡大印刷をしてください。」との依頼が多くありました。児童生徒自らの成果物を使用して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業が行われているのだと感じました。

学習指導案の書き方や学級づくりなど、様々な相談も

教材作成のアドバイスだけでなく、教材研究の仕方や学習指導案・通知表の書き方、学級経営などについて相談を受けることもあります。時には、授業や日常生活で起こる出来事や悩みの相談もありますが、「拡大資料のおかげで楽しい授業ができました。」などの報告をお聞きすることもありました。時間の許す限り声がけし、何気ないお話ができる雰囲気づくりを心がけています。「落ち込んでいても、話を聞いてもらって気持ちが明るくなりました。」と言っていたいたり、元気がない様子の先生に笑顔が見られたりすると、明日への活力につながったのではとうれしくなることもありました。



〈西部教科研究センター〉

来室者の声より

- 教科研究センターでの教材作成は必要です。デジタル教科書も使いますが、特に複式学級では一方の学年にあらかじめ教材を提示する準備をしてから授業を始めています。
- 拡大印刷した教材には、学習内容を書き加えたり付箋を貼ったりして学習の足跡を残すことができ、振り返りにも役立っています。
- 社会科の拡大印刷のみをお願いしようと来室しましたが、通知表の書き方や子供を見る視点をさらっと教えていただき大変勉強になりました。先輩の先生方のお話を聞く機会が減ってきたのでうれしかったです。
- 多忙な学校では、教材作成をする時間が限られるので、短時間に教材を準備していただき大助かりです。
- 教材の効果的な提示の仕方を一緒に考えてくださり勉強になりました。
- 学習指導案作成のアドバイスがありがたかったです。
- 土曜日にも開室しているので利用しやすいです。

『来てよかった 相談してよかった』教科研究センターに！



〈東部教科研究センター〉

来室者の感想から、子供たち一人一人に寄り添いながら、分かる楽しい授業をしたいという先生方の思いに触れ、アドバイザーも気持ちが引き締まります。教科研究センターは、『全ての子供に質の高い授業を提供するため、自主的な授業研究・教科研究活動を支援する』施設です。これからも来室者に寄り添った支援を続けます。どんなことでも気軽に声をおかけください。一緒に考えましょう。

春季閉室のお知らせ

★3月26日（日）から4月2日（日）は閉室します★

開室時間変更のお知らせ

令和5年4月から開室時間に変更になります！

平日 15:30～19:15
(月・火・木・金)

土曜 11:30～16:00
(水・日・祝日は閉室)

.....
令和5年8月1日～8月26日
11:30～16:00
(8月7日～8月16日は閉室)



《教育センターの四季：ツクシとスギナ》

ホームページアドレス変更のお知らせ

令和5年4月からホームページアドレスが変更になります！

<https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/kochi-studycenter>

教具の貸出しについて

教科研究センターでは、アーテックロボ、コード・A・ピラー（本部のみ）やボッチャの貸出しを行っています。詳しくは、各教科研究センターにお問い合わせください。



速報



教科研究センター（本部・東部・中部・西部）

令和5年2月の利用者状況 **184名**

◆◆ご利用ありがとうございました◆◆



教科研究センター（本部）	高知県教育センター2階（高知市大津乙181）	TEL/FAX 088-866-3903
東部教科研究センター	安芸総合庁舎4階（安芸市矢ノ丸1-4-36）	TEL/FAX 0887-34-8051
中部教科研究センター	中部教育事務所1階（吾川郡いの町枝川2410-7）	TEL/FAX 088-893-6597
西部教科研究センター	幡多総合庁舎3階（四万十市中村山手通19）	TEL/FAX 0880-35-6251

教科研究センターホームページアドレス <https://www.kochinet.ed.jp/studycenter>